

連絡先:

「20年目の琵琶湖調査団」に関するお問い合わせは・・・

「20年目の琵琶湖調査団」事務局
〒552-0007 大阪市港区弁天2-1-30
環境監視研究所内 TEL06-6574-8002

「合宿・琵琶湖市民大学」に関するお問い合わせは・・・

「合宿・琵琶湖市民大学」事務局
〒606-8335 京都市左京区岡崎天王町36 NPO法人
木野環境内 TEL075-751-0284

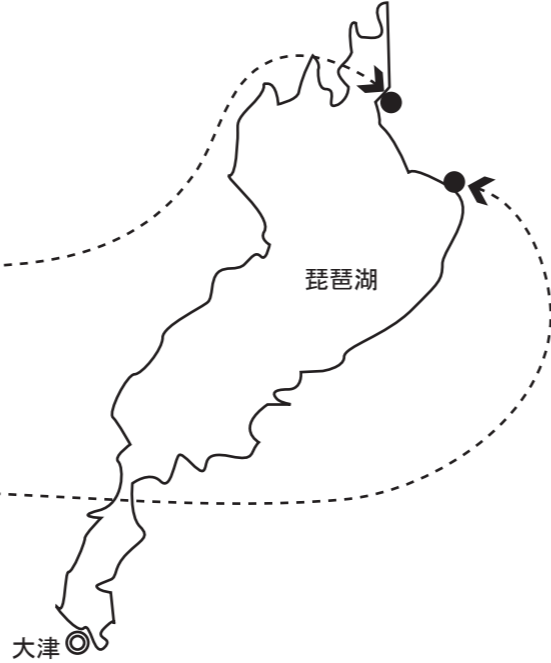
申込方法:

下記の申込書を **7月30日** までにFAXにてお送りください。
申し込まれた方には、追って詳細をお知らせします。
恐れ入りますが、申込多数の場合は、先着40名様とさせていただきます。

合宿場所:

朝日漁協会館(8月26日~28日)
滋賀県東浅井郡湖北町大字尾上
JR北陸本線「河毛」下車にて
湖北町タウンバス乗り換え「尾上」バス停降車
京都駅からは電車、バスにて2時間程度

長浜曳山博物館(8月29日)
滋賀県長浜市元浜町14-8
JR琵琶湖線「長浜」下車 駅から徒歩15分
京都駅からは電車、徒歩にて1時間半程度



市民・学生のための連続環境講座 合宿 琵琶湖市民大学 琵琶湖の20年後を考える

開催日 2004年8月26日(木)~29日(日)の3泊4日

※部分参加も可能
要事前申込

合宿・琵琶湖市民大学 入学願書・・・ 申込日 年 月 日

私は合宿・琵琶湖市民大学に入学を申し込みます。

名前: 読みがな: 性別: 女・男

生年月日: 年 月 日 所属:

住所: 〒

電話番号: - - 携帯番号: - -

FAX: - - E-mail: @

申し込まれるコース・金額に☑をいれてください。

【全日程コース】

すべての日程(8月26日~8月29日)に参加します。

一般 ¥30,000- 学生 ¥20,000- (受講料、食費、宿泊費、実習時の保険代)

【日単位コース】

8月26日(木)	8月27日(金)	8月28日(土)	8月29日(日)
<input type="checkbox"/> 一般 ¥6,000- <input type="checkbox"/> 学生 ¥5,000- 受講料*	<input type="checkbox"/> 一般 ¥10,000- <input type="checkbox"/> 学生 ¥8,000- 受講料、朝食、昼食代、前日宿泊費	<input type="checkbox"/> 一般 ¥8,000- <input type="checkbox"/> 学生 ¥5,000- 受講料、昼食代	<input type="checkbox"/> 一般 ¥1,000- <input type="checkbox"/> 学生 ¥500- 資料代

講義単位、昼食、夕食など単発のお申し込みも可能です。ご希望の方は別途申込書を送付いたしますので、下記に☑を入れてお送りください。

別途 申込書の送付を希望 → 送付方法: FAX E-mail

7月30日〆切 FAX 075-751-0284

1984年に近畿圏の市民と大学研究者、学生が琵琶湖・淀川の水質を明らかにしようと「琵琶湖・淀川汚染総合調査団」を結成し、共同で調査活動を行いました。

それから約20年たった昨年7月にふたたび調査団を立ち上げ20年目の琵琶湖調査を行いました。この20年間に水をめぐる環境は大きく変貌しました。水質はどう変わったのでしょうか。

来る8月に調査結果の報告を兼ねて琵琶湖をテーマにした環境問題の連続講座「合宿・琵琶湖市民大学」を開くこととなりました。調査結果や琵琶湖の過去と現状の報告をもとに、20年後の琵琶湖について考えようと思います。世代を超えて市民、研究者、学生が語り合い、議論するために合宿形式で行います。ぜひ御参加ください。

主催 : 淀川水系の水質を調べる会・20年目の琵琶湖調査団

協力 : NPO法人使い捨て時代を考える会 環境監視研究所 NPO法人市民環境研究所
神戸水環境研究所 (有)ひょうご環境科学研究所 NPO法人 木野環境

後援: 滋賀県(要請中)

講義スケジュール

講義・宿泊 8月26日～28日 湖北町 朝日漁業会館
記念講演 8月29日のみ 長浜市 曳山博物館

8月26日(木) 講演<琵琶湖の過去を学ぶ>/交流会

1 限目 13:00～ 開講式

2 限目 びわ湖は何を求めているか——武村 正義さん

13:30～ 話は昭和52年のびわ湖の「赤潮の発生」から始まる。粉石けん運動やびわ湖条例。古い話だが古くはない。悠々たるびわ湖の歴史のほんの一駒の話だが、この経験は現在にも未来にも貴重な教訓を与えてくれる。自然と人間のありようを問う話だからである。

3 限目 琵琶湖の畔(ほとり)での30年史——永島 鉄雄さん

16:00～ 学生時代に出会った矢橋人工島問題をきっかけに、その後滋賀県公立中学校教師として約30年、琵琶湖のほとりで生活し、琵琶湖・環境問題に関わってきた。これらの体験から「持続可能な生存」への道をともに考えたい。

4 限目 19:00～ 交流会

8月27日(金) 実習と講演<琵琶湖の現在を知る>/漁師さんとの交流

1～2 限目 琵琶湖調査実習

10:00～ 2コースに分かれ、それぞれ専門家が指導します。

Aコース…漁船に乗って水質、底質調査を体験、魚を見学。尾上近くの内湖を見学。

Bコース…漁船に乗って水質、底質調査を体験、魚を見学。早崎内湖ピオトープ、湖北野鳥センターを見学。

3 限目 琵琶湖の環境と魚——前畑 政善さん

16:00～ 琵琶湖には、広大な沖合、冷水塊、岩礁帯、ヨシ帯等さまざまな環境があり、個々の環境に適応して多様な魚類が生息している。最近の琵琶湖魚類の現状とその減少要因、文化などの関りについて言及する。

4 限目 19:00～ 漁師さんのはなし

8月28日(土) 調査結果報告と講演<20年後の琵琶湖を考える>/ドキュメンタリー上映

1 限目 琵琶湖調査結果の報告——20年目の琵琶湖調査団

10:00～ 昨年7月に実施した「20年目の琵琶湖調査」の結果を発表。琵琶湖の水質は20年間でどう変化したのか。発ガン物質や環境ホルモン物質など興味深いデータもあり、これからの琵琶湖を考える好材料を提供。

2 限目 水上バイクと外来種問題から見た琵琶湖の現状と未来——寺川 庄蔵さん

13:30～ 高度成長期から琵琶湖の自然破壊が進み、美しい本来の姿が失われた。「琵琶湖総合開発計画」は琵琶湖をダム化し、その総括をきちんとしないまま進められる「マザーレイク21計画」(琵琶湖総合保全整備計画)。奇麗事で琵琶湖の未来はあるのか。

3 限目 琵琶湖から菜の花エコ革命へ——藤井 絢子さん

16:00～ 住民イニシアティブで琵琶湖再生運動をどう形成するか。せっけん運動を超えるエネルギー・農業の自立までせまる地域モデル”菜の花プロジェクト”の展開。

4 限目 ドキュメンタリー上映——中島 省三さん

19:00～ 琵琶湖の映像を記録として撮り始めたのは1977年。1972年からの琵琶湖総合開発によって湖が大きく変貌していく、まさにそんな時代であった。美しい波や消えゆく湖岸、そしてアオコや赤潮を琵琶湖からのメッセージとして収めているドキュメンタリーを上映。

8月29日(日) 20年後の琵琶湖を考える記念講演会

特別講義 日本の水はよみがえるか——宇井 純さん

14:00～ 我々が生活する上で最も身近な物質の水を現代人はあまりにも乱暴に使い、多くの環境問題を起こしてしまった。足尾鉍毒事件や水俣病などが引き起こされた要因を多面的に分析することによって、今後日本が進むべき水環境政策への方向性を導きだす。

講師紹介



武村 正義さん

1934年滋賀県八日市生まれ。1962年(昭和37)東大経済学部を卒業後、自治省へ入省。

71年郷里の八日市市の市長に当選、40歳で県知事に当選。全国最年少の知事になった。県民との対話路線で県政をリードし、78年、82年と2期つづけて無投票で再選された。86年衆議院議員に。細川内閣では官房長官、村山内閣では蔵相を務めた。



寺川 庄蔵さん

1944年滋賀県志賀町生まれ。1962年滋賀銀行入行。1983年比良の自然を守る連絡会議

結成し代表、比良スキー場拡張計画を凍結し追い込む。1990年びわ湖自然環境ネットワーク結成し代表幹事。ゴルフ場、空港、ダム、ごみ、水上バイク、ヨシ植栽、魚ののぼれる川づくり等滋賀県内のさまざまな自然と環境問題に取り組む。



永島 鉄雄さん

1950年青森県青森市生まれ。京都大学工学部衛生工学科在学中に、流域下水道問題

と琵琶湖問題に関わりをもち、滋賀県教員に。現在、志賀町立志賀中学校教諭。



前畑 政善さん

1951年福井県大野市生まれ。専門は水族繁殖学(魚類生態学)。20

数年来、日本産希少淡水魚の系統保存に取り組む一方、最近では琵琶湖産ナマズ類の繁殖生態、水田の魚類生態を研究。理学博士。



藤井 絢子さん

1946年神奈川県生まれ。食の安全を求めて地域生協活動に関わり、琵琶湖再生に向けて

1989年滋賀県環境生協を設立。環境省中央環境審議会、バイオマス・ニッポン総会戦力等の委員を務める。資源循環の地域づくりをめざし菜の花エコプロジェクトを展開している。



宇井 純さん

1932年東京都生まれ。東京大学工学部都市工学科助手であった

1970年に公害の研究を市民に直接伝える場として自主講座「公害原論」を開講。15年にわたって講座を続けた。その後沖縄大学に移り、沖縄でも公開講座を開講。大学を退職した現在も各地で環境問題の講義を続けている。

20年目の琵琶湖調査団について

淀川水系の水質を調べる会・20年目の琵琶湖調査団とは

「淀川水系の水質を調べる会」は淀川水系の水質保全を目的に水質調査を行うNGO。1994年に発足し、独自のプランとプログラムによって河川の水質調査活動を行ってきた。昨年7月に実施した「20年目の琵琶湖調査」の結果を発表。琵琶湖の水質は20年間でどう変化したのか。発ガン物質や環境ホルモン物質など興味深いデータもあり、これからの琵琶湖を考える好材料を提供。

淀川水系の水質を調べる会 代表 中地重晴 (環境監視研究所所長)
20年目の琵琶湖調査団 団長 石田紀郎
(元京都大学教授、NPO法人市民環境研究所代表)
副団長 讃岐田訓
(元神戸大学教授、神戸水環境研究所代表)

調査団のあゆみ

2002年12月 ……調査団結成に向けて準備を始める
2003年2月22日 ……調査団発足の集い開催
2003年5月3日 ……予備調査実施
2003年7月12日 ……公開学習会&予備調査報告会
2003年7月26～27日 20年目の琵琶湖調査実施
2004年3月～6月 ……連続公開学習会開催

食事もこだわります!

合宿 琵琶湖市民大学の開催期間中の食事を京都の市民グループ「NPO法人使い捨て時代を考える会」が担当します。「使い捨て時代を考える会」は1973年に植田劭さんが中心となって立ち上げ、以後30年にわたって環境問題、食の問題、有機農業運動を展開してきました。

有機農業に取り組む生産者の野菜を使い、体にも環境にも優しい食事を作って、食について考える機会を提供します。